

太陽の子

2014年 10月

No.149

秋の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(23)2620

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立市太陽の家支える会



平成26年10月、日立市ひまわり学園、日立市しいの木学園はNPO法人日立太陽の家が日立市から指定管理運営業務を受けます。新しい仲間と共に、これからも宜しくお願いします。

指定管理者としてめぐすこと

特定非営利活動法人日立太陽の家

理事長 小 又 克 也

「もう苦しまなくてもいいんだよ……」
医療機器が外された我が子に寄り添う母の言葉は深く、
どこまでも優しい。

「二分一秒でも長く我が子といたい……」との母の言葉を
本紙冬の号(一四六号)で紹介してから間もない我が子の
旅立ちだった。この母子を通して福祉にはもっともっと先
があることを教えられた。

さて、この十月から「日立市ひまわり学園(生活介護)」
及び「日立市しいの木学園(就労継続B型)」の指定管理者
としてその運営を担っていくことになった。指定管理者と
して整えるべきこと、期待されていること、法人として目
指すこと、種々の視点から思いを巡らし、今、真っ先にや
りたいこと……、それは利用者さんの笑顔。重症心身障害
児(者)への支援を中心としている太陽の家にとっては未
知の領域、その中であえて太陽の家が担うことになったの
は、「利用者さんの笑顔」という福祉の原点が共通であるか
らだと理解している。

春から運営の一部業務委託を受け、利用者さんと少しづ
つの関わりの中で、両学園のそれぞれの利用者間の力(ス
トレングス)に驚かされ、同時にわくわく感を覚えた。そ
れぞれが共通の目的をもった仲間として、お互いに助け合
い、認め合い、励まし合い、共に泣き、共に笑うことを目
指していけると確信することができた。その輪の中にお父
さん、お母さんたちにも加わっていたとき、もちろん職員も、
その他支援をしてくださる方々もみんな一緒にこの仲間の
一員として共に歩んでいければ、きつと素敵な笑顔に出会
えるに違いない。

バトンタッチ

日立市しいの木学園 サービス管理責任者

阿部 結花

十月から、太陽の家に仲間入りします、しいの木学園です。よろしく願います。

昭和四十九年四月に知的障害者の授産施設として開所しました。昔、助川城があつた頃から、しいの木がたくさんこの場所にあつたそうです。実は食べられ、大切にしていたようです。根がしっかりしていて力強く、今でも園庭にたくましく根付いてみんなを見守ってくれているようです。そんな願いが込められ、しいの木学園という名前が付けられたのではないでしょう。現在は、男子十九名、女子四名の合計二十三名。年齢も二十代から六十代まで幅広く、個性豊かな利用者さんと、職員八名(平均年齢は高い)と毎日パワフルに活動しています。毎朝九時にラジオ体操と共に、身体を動かし、仕事開始となります。仕事は、段ボールを型にそってはずし、折ったり、組み立てたりと、破かないように、一枚一枚丁寧に神経を使う作業です。組み立てても難しく、頑張つて

できあがると、「できたよ」と満面の笑みで伝えに来てくれます。軽作業もあり、ニツパ使いはお手の物。シーツのアイロンかけは、暑くなる

と冷房をかけても汗ビッシュヨリ。しわしわのシーツがパリッと仕上がっていきます。ここにも職人さん発見。しいの木ブランドの飾りふきん、色々な色でミシンを使い綺麗に仕上がっていきます。台ふきんは女子たちが、一枚一枚心を込めてミシンで縫い上げます。その他にも色々そろえてあります。余暇活動では音楽活動、体育活動など、月に2回行っています。音楽活動では、わくわくパークに向けて熱の入った練習が続いています。体育活動は、曲に合わせて身体を動かしています。暑くなると体育館の中は蒸し風呂のようですが、笑顔で楽しんでいます。作業の合間には歩行訓練があり、小平会館や助川山のあたりを約一時間歩きます。これもまた楽しみの一つです。また半年しかいませんが、毎日利用者さんが

まつすぐ向かってきては私のパワーを与えてくれます。その気持ちに応えられるようにしっかりと受け止めてあげることがとても大切だと思えます。

戻りました!

日立市ひまわり学園 玉木 美沙

三月十日育児休暇が明け「さあ、また仕事がんばろぞ!」と少し緊張しながら出勤。小又理事長のところに行くこと「ひまわりね」の一言。「えっ……?」ひまわり学園に異動を命じられた瞬間でした。

太陽の家のお楽しみ会で異動が発表されると大号泣。泣くつもりはなかったのですが太陽のみんなと離れるのかと思うと涙が止まりませんでした。

四月、ひまわり学園出勤。以前働いていた時の記憶が少しづつ思い出されます。

利用者の変わらぬ笑顔があり、元気に学園内を走りまわっていること。新しい利用者さん。支援員が増えていくこと。新・ひまわり学園にワクワクしてきました。新しいクラスが発表され、

十月からバトンをしっかりと受け取り、築き上げた歴史を大切に歩いていきたいと思っています。市の職員の方々には、大変お世話になりました。ありがとうございます。

初めは担当として認めてくれなかった利用者さんも、少しずつ担当を意識してくれるようになり歯磨きをさせてくれたり、声かけに反応してくれるようになったりとおもしろい出来事がともうれしい毎日です。

ひまわり学園の一日、一週間、そして一ヶ月はあつという間に過ぎていきます。

バスで登園し、着替えをして朝会。歩行や体育、ミュージックケアをしておいしい給食。午後は作業やクラブ。その他に講師を招いての音楽や体育。ほぼ毎月のように企画される園内外の行事。太陽の家の生活介護でも感じていましたが、企画するのは大変ですが、企画、実施し、利用者さんの笑顔を見ると「やって良かった。また次もがんばろう」という気持ちになります。

利用者さんが笑顔だと支援員もうれしく笑顔になる。逆に支援員が笑顔だと利用者さんも笑顔を見せてくれる。利用者さんが降園したあとの職員室はその日の出来事を共有したくて話すと笑顔が止まらずともにぎやかです。

現在、私はサービス管理責任者になるための研修を受けています。私がサービス管理責任者でいいのかという不安な面はありますが、利用者さんが笑顔で過ごすためにはどうしたらいいのかということに第一に考えて支援していきたいと思っています。

今日までひまわり学園に関わってきた支援員に感謝し、今日からの支援員でひまわり学園をさらにパワーアップしていきたいと思えます。

朝、風の家から太陽の家の生活介護に登園する利用者さんに時々会います。挨拶すると笑顔で答えてくれます。笑顔ってステキですね。



日立守る会だより

日立重症心身障害児（者）を守る会

息子の自立生活（パート2）

日立重症心身障害児者を守る会 会長 藤枝利彰

前回は利教が自立生活を始めた経緯を話しましたが、今回はどのような日常生活を毎日送っているか話したいと思います。

自立生活を始めて今年の十月で五年目に入り、アパートの契約も三回目（二年）を迎え毎日楽しく生活を送っております。

移動手段は母親が乗っていた車を使用し、ヘルパーさんが運転し、日立や水戸などに移動しております。

お金の管理は本人がしており食料代、アパートの家賃、電気代、水道代、ガス代、携帯電話代等を年金と自立生活を始める前の蓄えで賄っております。また、年金だけで生活を始めるのは大変なので、時々アパートへ行き、食料品や日常生活の補充をしており、また、車の維持費やガソリン代は母親が補っております。

外出の用事のない時は、アパートで机に向かい、個展等に発表する詩をパソコンで作っております。自立生活を始めてから今までに行なった個展は東海村総合福祉センター「絆」で一回展示、ひたちぎんぎモール商店街のふれあいステーション「よって家」で五月に新作五十作

品三回目（よって家では二回目の個展を行なっております。また八月二十五日より九月七日までの二週間、水戸市宮町のMINERVAにて、利教、松本美枝子様（写真家）、小林透様（写真家）の三人のコラボレーションによる写真展の展示会を行ないました。企画は本人が二人に協力を依頼して今回の展示会が実現したとの事でした。展示会のタイトルは「きみどりいろにながれる」で行なわれました。作品の一部を紹介いたします。

今日という日よ
ゆたかな時間が 流れますように
木の間から 差し込む陽のひかり
浴びれば
すがすがしい香り
ゆるやかに 一日が流れる時
森にいれば 天使がおりてきそう
森ごと 天国になつてしまえそう
ぼくらが望む空の上の世界は
こんな所のようにだろう
どこにいても永遠に
こんな毎日が 見られますように

高校時代より詩を書き始め、生きてきた中で手にした喜びや悲しみ、怒りを糧にした作品が多いようです。

出合いを大切に

（それぞれの想いをくみ取る地域医療を目指して）

日立南部地区訪問介護ST（ステーション） 田地伸江

はじめまして。私は訪問リハビリを専門とする理学療法士です。縁あって現在、太陽の家利用者の方のリハビリに携わっております。

学生の頃よりずっと小児関係の訪問リハビリを夢見ていた私にとつて、この出合いはとても意味深いものであり、今、この時だからこそ出来る何かがあるのではないかと、そう感じさせて頂ける出合いだと思っております。

皆様は在宅医療や訪問リハビリについてどの位ご存知でしょうか。私共いばらき会は在宅医療を専門とする医療機関です。在宅という落ち着いた方を往診しているイメージが強いと思われませんが、ご自宅でも病院と同じような専門的な治療が受けられますし、医師、看護師が二十四時間、三六五日体制で連絡、往診ができるシステムになっております。もちろん、必要に応じて大きな病院を紹介する事も可能です。住み慣れた地域やご自宅で、その方らしい生活が送れるようご支援させて頂いております。そのチームの一員として、私は十五年間訪問リハビリを行ってきました。その間多

本人は詩を書く事や個展を開催する事を生きがいに自立生活を毎日頑張っております。

くの方との出合いや別れの中で、生きる事の尊さや難しき、人の愛情や想いの素晴らしき、様々な奇跡など、言葉では言い尽くせない色々な事を教わった気がします。

では、訪問リハビリは実際にはどのような事をしてるのか。病院と同じような機能訓練と思われがちですが、それはある一面だけに過ぎません。様々な年齢、疾患の方、急性期や回復期、最期の時間をご自宅で過ごし看取りをされる方など多様な関わり方をさせて頂いております。そして病院との大きな違いは、ただの訓練としてではなく、住み慣れた生活の中で、その方やご家族の能力に合わせたリハビリを、その時々々の問題点に応じて行えるというのが最大のメリツトだと思えます。医療側からの押し付けではなく利用者やご家族が主体的に行う事で、より効果を生むことにもなります。そして、ご本人含め関わる人々の「〇〇したい」という思いが反映される事が大事だと考えています。ただ、在宅とはとても長くゴールの見えない旅のようなものです。障害を抱え生きる利用

者やご家族も、頑張りや永遠に続くものではありません。そんな方々の傍らで一緒に時を過ごしながら、同じ悩みや喜びを共有し合う、それは訪問リハビリの仕事にも太陽の家の仕事にも通じるものだと思いますし、直接的な援助として生活を支える太陽の方々の仕事はより頭の下がるものだと思います。

また、訪問リハビリを行うスタッフはとも少なく、すべての障害者と関われるわけではありません。どうしても、医療度が高く専門的な治療が必要な方、回復の見込みのある方が優先となつてしまいます。それでも、多くの地域の方々に救いたい……皆様はリハビリテーション・マインドという言葉をお聞きになったことがありませんか。ただ単に機能回復や訓練を行うというのではなく、総合的なリハビリを行うことで、障害者が人間（その人）らしく生きる権利を取り戻すことを目的とした考え方です。私は、障害者に関わる全ての方がこの精神を持ったチームの一員であり、資格に関係なく全ての方がリハビリを行うのは可能だと考えています。もちろん、専門的な知識や技術が必要な治療もありますが、基本的な生活に即した介助や行動のすべてが、考え次第で専門的なりハビリを受けるのと同じ位の効果が得られる事もあるのです。

その中で、ご家族やスタッフの方に大切にして頂きたいのは（次頁へ）



ぶどう狩りに行きました。日が射す園内では手を伸ばすとぶどうに触れられ、もぎたての甘い果汁にみんなで大はしゃぎ、楽しい一日を過ごしました。(太陽の家)



風の家のお泊まり前のひととき。実習生と共に楽しい雰囲気の中くつろいだ時間を過ごしたEさん。今夜もいい夢が見られそうですね。(太陽の家居宅介護事業所)



みんなで囲む食卓はとても楽しい雰囲気！今日はレディス・デイなのでガールズトークが弾んじゃう♡(風の家)



グループ活動でファッションクルーズに行きました。一足早い秋の装いのショップを眺めながら時の経つのも忘れてお買い物、みんなで食べるランチも最高の一日でした。(太陽の家)

日々の「気づき」です。「何か違う」「何かおかしい」と思うと人は不安になり、過剰な反応や判断をしてしまいがちですが、そこで何が違うのかを冷静に考え、論理的に解き明かすのが医療人の役目であると考えています。その身近な人の「気づき」があつて、はじめて医療の知識が生かされるのです。「あの時こうしていれば」「もっと早く〇〇しておけば」という後悔を少しでも減らせるようなお手伝いが、リハビリの専門家として出来るのではないかと。それが、太陽の家の利用者やご家族、スタッフの方との出会いで感じた希望の光のような気がしています。

とにかく、利用者の方の純粹無垢な笑顔に元気をもらい、ご家族やスタッフの方の熱い思いと愛情に感謝しています。そのお手伝いの一部として、日常のリハビリのポイントや豆知識など定期的にご紹介させて頂ければ幸いです。特に嚥下や呼吸、生活上の姿勢の大切さなど、ほんの少しのポイントを頭に入れるだけで、今までの疑問が解決したり、将来の不安や恐れを軽減できると思っています。

今後、太陽の家の利用者やご家族の方も高齢化が進み、気切や人工呼吸器、胃ろうなど医療度の高い利用者の方も増える中、それでも、毎日を笑って過ごせる、そんな穏やかな日々を一緒に過ごせる仲間であれたら、そう願っています。

(前頁から)

お知らせ

◎平成二十六年年度
日立太陽の家利用者数

百二十四名
男性 七十三名
女性 五十一名

◎退園のお知らせ
島根涉さん

施設入所のため日立市太陽の家(生活介護)を七月に退園しました。四月に入園して四ヶ月間、短い時間でしたが皆さんの笑顔はみんなを幸せにしてくれました。これからもお元気でお過ごしください。

ご寄付ありがとうございました

○次の方から寄付を頂きました(敬称略) 六月〜八月
日立市更生保護女性会
前田あけみ 善和会
鈴木貫一 とく名
○次の方から物品の寄贈がありました(敬称略) 六月〜八月
椎名将光 母子療育ホーム
大久保紗織 根本将伍
福田法子

編集後記

運動会、紅葉狩り、秋祭り、空が高くなりみんなの笑い声が響いています。(K記)